

奈良新卒応援ハローワーク通信

第11号 令和5年1月16日

まだ知らない職業・業界を見つけにいこう

あなたが子どもの頃に「なりたかった職業」は何ですか？テレビなどで「なりたい職業ランキング」の発表を見ると、少し前には思いもなかったような職業が挙がっていたりします。学校で職業研究をしたり職場見学に行った経験がある方もいるかと思いますが、みなさんは今、世の中にどのような職業・業界があるのか、いくつぐらい答えられますか？

職業情報提供サイト「job tag(じょぶたぐ) (※)」では、約500の職業について、その職業の解説、求められる知識やスキル、どんな人に向いているかなどを数値データで「見える化」して紹介しています。サイト内の職業興味・価値観の診断テストで、自分が楽しいと思うこと・やりがいを感じることの特徴から職業を探したり、これまでの経験が活かせる職業や、苦手なことがあるけどどうしよう・・・といった視点からも検索ができます。

就職活動での「この仕事を受ける時にどんなポイントをアピールしたらいいんだろう？」等の疑問にもヒントをくれるので、ぜひ情報収集に使ってみてくださいね。また、「やりたい仕事が見つからない」というあなたも、サイトを使ってまだ出会えていない職業・業界を見つけてみませんか？気になる職業が見つかったら、ハローワークインターネットサービスでの求人検索や、奈良新卒応援ハローワークの窓口でもご相談お待ちしております！

※「job tag(じょぶたぐ)」は一般公募で選ばれた 職業情報提供サイト(日本版O-NET)のサイト愛称であり、厚生労働省が商標登録しています。

職業情報提供サイト 日本版 O-NET 新しい業界や、知らない職業を知ったり、チャレンジしたりするきっかけに！

jobtag

こんな悩みを解決できます！

- 経験や知識が活かせる、これまでとは違う職業はあるかな？
- 楽しいと思えることや、やりがいがある仕事、働き方を仕事ってなんだろう？
- 自分の生活では見かけない企業内で活躍している職業ってどんな仕事があるんだろう？
- 希望の職業の収入や生活はどれくらい？
- どうしても苦手なことがあるけど、大丈夫かな？

job tag 職業情報提供サイト 愛称



職業情報

検索

↑ 早速アクセスして、気になる職業を調べてみてね！

“言葉”だけじゃない、たくさんの感謝をもらえる仕事

みなさんが仕事を通して「実現したいこと」は何ですか？「人の役に立ちたい」「感謝される仕事をしたい」という話を、新卒応援ハローワークの窓口で伺うこともあります。自分の働きかけで、誰かの役に立てたり、ありがとうと言ってもらえるのは嬉しいことですね。今回はそんな仕事の1つをご紹介します。

「社会福祉法人 ならやま会」は今から約30年前、障害を持つ子どもの親たちの声から作られた法人です。当時は特別支援学校等を卒業した後の作業所等の選択肢が少なく、年月が経ち、保護者が年を重ね、子どもたちを見守れなくなる時が来ることへの強い不安から、子どもたちの居場所や生きがいを作りたいと法人を立ち上げ、ひとつずつ事業所を増やしてきました。



グループホーム大和田

(左) 施設外観

(右) 居住スペース。天井が高く明るい空間です。



ならやま会では現在、「障害者福祉」「高齢者福祉」「児童福祉」の3つの事業で18事業所を運営しています。

今回は、生活介護事業【にじいろ】の竹内さんと、共同生活援助【グループホーム大和田】の小橋さんにお話を伺いました。とても優しく気さくな雰囲気のお二人は両施設の施設長で、小橋さんは昨年11月に施設長になったばかりとのこと。利用者さんが手漉きでつくった和紙の名刺でご挨拶いただきました。

ちなみに、ならやま会には女性の施設長が4名いて、パートタイマーから正規職員を経て施設長になった方がいるなど、雇用形態や性別などでキャリアを限定されることはないそうです。

「特別なスキルがなくても、活躍することのできる仕事です」と小橋さんは話してくださいました。

(裏につづく)

奈良新卒応援ハローワーク
公式LINE

セミナー・イベント情報など
就活に関する情報をお届けしています。



登録してね



自分の「得意」「好き」を活かして働く

小橋さんの働く「グループホーム(居住施設)」では、利用者さんの朝起きてから夜寝るまで(寝ている間も)の生活全般を支援しながら、生活トータルのコーディネートと一緒に考えます。日中、利用者さんの不在時には清掃などをしたり、病院の付き添いを行うことも。

一方、竹内さんの働く「通所施設」では、日中活動を中心に支援をしています。グループホームや自宅から通ってきた利用者さんと、「今日は何をしましょう」と話することから一日が始まります。清掃等の委託業務など仕事がメインの午前中と、お楽しみ活動がメインの午後に分けて様々な活動をしています。

いわば、グループホームは「家」で、通所施設は「会社や学校」のイメージです。

現在はコロナウイルス感染対策のため、少人数に分かれて日中活動を行っています。この日は、みんなで協力してクリスマスの飾り付けをしていました。「〇〇さん、このリースはここでいいかな?」「〇〇さん、一緒に貼りましょう!」利用者さんと職員がお互いの名前を呼びながら、飾り付けが出来上がっていきます。ゆったりとした時間が流れつつ、時に爆笑が起こったり、みんなが自由に過ごしています。

秋の芋掘りで取っておいた芋の“つる”を使ったリースも、紙の輪っかのできたツリーも、全て職員のアイデアからの手作り。「工作、ピアノ、お好み焼きをつくるのが得意な人。ここではいろんな得意を生かします。」と竹内さん。竹内さん自身は、大きな声を出してみんなに呼びかけることが得意だそうです。「大きな声で楽しそうに話していたら、『なんだらう、楽しそうだから一緒にやってみよう』となりますよね。」



利用者さんと一緒に飾り付けをする職員



「挑戦する気持ちがあればどんな人でも働けます。知識があるに越したことはないけれど、特別なことは不要です」(小橋さん)。研修はOJT中心で、新人職員には一人ずつ指導担当職員がつき、シフトを合わせて勤務をしながら仕事を教えてもらいます。まずは利用者さんの名前と特性を覚えて、その後に対応や介助の方法を覚えていきます。交換ノートを使ってお互いに進捗状況を確認めながらその人に合わせたペースで進めていきます。

「利用者さん以外にも保護者や業者など様々な方に対応する機会があるため、『挨拶』や『礼儀』は身につけていると良いですね」(小橋さん)。「スタンドプレーではなく、チームで連携するのを面白いと感じる方が向いていると思います。」

当たり前の“幸せの瞬間”を感じる

この仕事の「魅力」は为什么呢?「利用者さんから、感謝の言葉・笑顔・反応をもらえて、あったかい気持ちを感じられます」(小橋さん)。「例えば、みんなで散歩をしている時、利用者さんから『天気がいいね』と言われ、その一言で当たり前の“幸せの瞬間”を再認識しました。小さな幸せを重ねて感じられる仕事です。」(竹内さん)

時に利用者さんとぶつかったり、うまくいかないこともあります。そんな時は利用者さんや他の職員と話をしたり、言葉だけでなく積極的にコミュニケーションをとっていきそうです。小橋さんは「いつも笑顔でいること」を心がけています。「自分が笑顔でいると、相手も笑顔になる」ことを仕事を通して実感してきました。竹内さんも「声を出してほしい」ということを、職員みんなにずっと伝えているそうです。「どんな小さなことでも分からないことは何回でも聞いてほしいし、何回でも伝える」(竹内さん)。職員同士でも相手のことを大切に、相手の立場に立って、チームで働くことを大切にしています。



完成した飾り付けの前でみんなで記念撮影!

一生モノの仕事になるかも

「介護や障害者支援の仕事は、まだまだネガティブなイメージをもつ方もいるかもしれません。『ちょっと一度やってみようかな』くらいの気持ちで体験しに来て下さい。やってみないと向き不向きも分からないですよ。もしかしたら、ここが一生モノの仕事になるかもしれません」(小橋さん)。「一億総活躍社会に向けて、国全体で障害者支援のような福祉の仕事をサポートしていく流れもあります。今後も無くなることのない仕事です」(竹内さん)。

最後にお二人から「ぜひならやま会に来て下さい!」と、大きな声で、強く温かい歓迎のメッセージをいただきました。

社会福祉法人 ならやま会

事業内容:

児童発達支援センターの子どもから
特別養護老人ホームの高齢者の方々まで、
様々な年代の方に福祉サービスを提供。

本社所在地: 奈良市奈良阪町2532-3

ホームページ: <https://www.narayamakai.jp>



ならやま会では現在、生活支援員や介護職員など、一緒に働く職員を募集しています。詳しくはハローワーク窓口までお問い合わせください。